# Part 1, Vols 1–2 : Social Life, First Series

ISBN 4-902708-21-3 C3322 • 全2巻セット定価41,000円(税込43,050円)

## 風刺画によって描かれた 18世紀イギリスを解説する貴重な資料。

### Volume 1 : Thomas Wright *Caricature History of the Georges; or, Annals of the House of Hanover, Compiled from the Squibs, Broadsides, Window Pictures, Lampoons, and Pictorial Caricatures of the Time* [1868]

ISBN 4-902708-22-1 C3322 • 652 pp., 13 pl. (1 col.), c. 400 ill.
22,000円(税込23,100円)

イギリス18世紀の風刺画の歴史を明快に解説した好著。ジョージⅠ世の即位から、のちのジョージⅣ世が摂政皇太子だった時期までを、時代別・項目別に非常に多くの図版とともに論じている。イギリスの18世紀の歴史をまるごと通観できるような内容を持つ。

**George I • George II • George III • Regency**

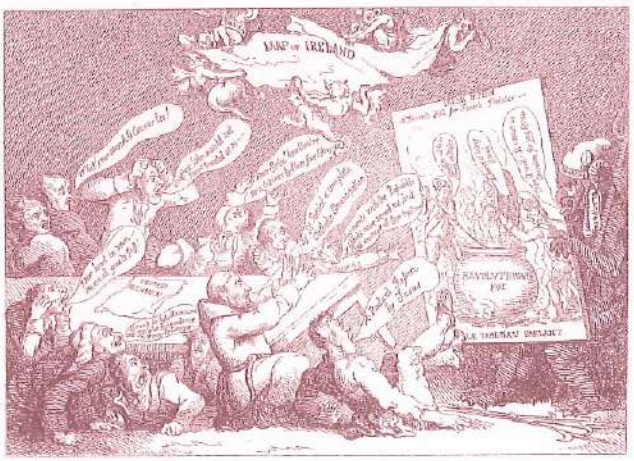
Topics discussed include: Jacobite riots and the Riot Act; history of the London Jacobite mob; the king's departure from Hanover; prevalence of highway robbery; the South Sea Bubble; sudden multiplication of stock-jobbing bubbles; South Sea caricatures; the stage; operas, masquerades, and pantomimes; *The Beggar's Opera*; *The Dunciad*; political use of the stage; Act for licensing plays; attacks upon Pope; the Bill for the naturalisation of the Jews; Hogarth's prints; popular discontent; beer *versus* gin; magazines and reviews; prevalence of quackery and credulity; influence of French fashions; exaggerated fashions in costume; the Maccaronis; *The North Briton*, and the "Essay on Woman"; attempt to tax the Americans; liberty of the press; caricatures on the American war; Fox's India Bill; Carlo Kahn; the trial of Warren Hastings; first indisposition of George III; the Regency Bill; effect of the French Revolution in England; revolutionary sympathy in England; taxes and reform; insult upon George III; wine and dog tax; Irish rebellion; extravagance of fashions; the balloon mania; gambling; licentiousness of the masquerades; the opera and its abuses; the Pic-Nics; the Shakespeare mania; science; societies; Buonaparte emperor; Trafalgar; Waterloo; the dandies and the hobby-horses; etc.

### Volume 2 : Henry Benjamin Wheatley *Hogarth's London : Pictures of the Manners of the Eighteenth Century* (1909)

ISBN 4-902708-23-X C3322 • 488 pp., 53 pl.
19,000円(税込19,950円)

世相を痛烈に風刺した作品で人気のあった18世紀イギリスの国民的画家ウィリアム・ホガース。彼が取り上げた様々な題材について、その社会的状況との関係をつぶさに解読。ホガース研究のみならず、当時のロンドンの世相を活き活きと伝える内容を持ち、イギリス文学・文化研究者にとって有益。

Hogarth's Life and Works • High Life • Low Life • Political Life • Church and Dissent • Professional Life • Business Life • Tavern Life • Theatrical Life • Hospitals • Prison and Crime • The Suburbs • Literature of Hogarth • Index



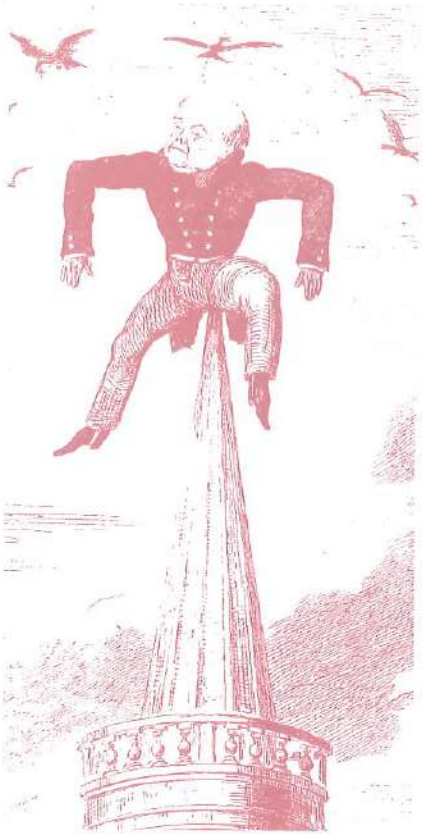
# 漱石とHogarth

## 「此ホーガースと云ふ人は疑もなく一種の天才である」(夏目漱石『文学評論』)

仙葉　豊 (大阪大学教授)

漱石がロンドンの留学から帰国して最初の講義が『文学形式論』や『文学論』というやや硬い形のものになったのはよく知られているが、その次に漱石が講義の対象に選んだのは18世紀の文学に関してのものであり、これは、後年に、『文学評論』という形に結実する。つまり、小説家以前の漱石は最初の18世紀イギリス文学者でもあったのであり、このことはあまりよく知られていないのではなかろうか。

最初の『文学論』などの講義が例の (F+f) というはなはだ難しいものになって、生徒間に評判が悪いことを自覚したせいか、『文学評論』では、より分りやすい講義の方法をとることになり、まず政治や哲学や思想史などを概観したあとで、「社会の風俗を叙述して、十八世紀はこんな者だと云ふ図絵を与えておいて」、しかるのち本編の文学を述べるという漱石である。このような、イギリス18世紀のなまの「風俗」と「図絵」を生徒にみせるときに役に立ったのがHogarthの画集だった。おそらく教室に実際の画集を持ち込んで、「前代の事を一つの絵画として見、一つの活動せる社会として見る」というような説明方法をとったのではなかろうか。漱石は最初のHogarth導入者でもあったのである。

現在、漱石文庫として残されているHogarthの画集は、J. Trusler編の *The Works of Hogarth* (1833) だけなのだが、ひょっとすると他の版もあったかもしれない。Truslerのものは、今はリプリントでも手に入るのだが、この頃のHogarth学がどのようなものであったかはなかなか分らない。何かいいものがないだろうかなどと思っていると、今度、Henry B. Wheatley の *Hogarth's London* (1909) が復刻されるという。この本は、書誌学者Wheatleyが書いた当時の最高のHogarthの研究書といってもいいもので、漱石が『文学評論』中でその名前に言及している、碩学Austin Dobsonの *William Hogarth* (1891) と並び称されているものである。また、アティーナ・プレスから同時に復刻されるThomas Wrightの *Caricature History of The Georges* (1868) も、18世紀の主だった事件を題材にした風刺画の歴史が多くの図版とともに要領よく概観されているものであり、Hogarthの生きた時代のヴィジュアルな歴史のコンテクストを、現在もなおわれわれに与えてくれているという点で大変貴重なものである。筆者自身としては、19世紀末から20世紀初頭の漱石の生きていた時代のHogarth学をもう一度眺め返しながら、『文学評論』を読み直してみるのも悪くはないと思っている。

ちなみに、漱石が『文学評論』を書く際の風俗史的な側面の参考書として挙げているA. Barbeauの *Life and Letters at Bath in the Eighteenth Century* (1904) は、このシリーズの第3巻として復刻される予定である。